

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

#3  
4-2-00

In re Application of

Youichi HANAKAWA et al.

Serial No. Not yet assigned

Filed: herewith

For: STICKER

Group Art Unit:

Examiner: N/A

1c929 U.S. PTO

10/073040



**CLAIM OF PRIORITY AND**  
**TRANSMITTAL OF CERTIFIED PRIORITY DOCUMENT**

ASSISTANT COMMISSIONER FOR PATENTS  
Washington, D.C. 20231

Dear Sir:

In accordance with the provisions of 35 U.S.C. 119, Applicant hereby claims the priority  
of:

**Japanese Patent Application No. 2001-130387 filed April 26, 2001**  
of the present application.

The certified copy is submitted herewith.

Respectfully submitted,

LOWE HAUPTMAN GILMAN & BERNER, LLP

Benjamin J. Hauptman  
Registration No. 29,310

**DATE: February 12, 2002**  
1700 Diagonal Road, Suite 310  
Alexandria, Virginia 22314  
Telephone: (703) 684-1111  
Facsimile: (703) 518-5499  
BJH:EJ

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

JC929 U.S. PTO

10/073040



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2001年 4月26日

出 願 番 号

Application Number:

特願2001-130387

出 願 人

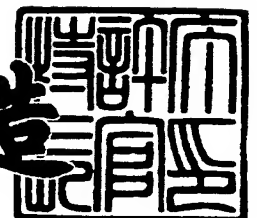
Applicant(s):

コクヨ株式会社

2001年11月26日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3102662

【書類名】 特許願

【整理番号】 KYO-0129

【提出日】 平成13年 4月26日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 G09F 3/00

【発明の名称】 付箋紙

【請求項の数】 4

【発明者】

【住所又は居所】 大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番 1 号 コクヨ株式会社  
内

【氏名】 花川 陽一

【特許出願人】

【識別番号】 000001351

【氏名又は名称】 コクヨ株式会社

【代理人】

【識別番号】 100101188

【弁理士】

【氏名又は名称】 山口 義雄

【電話番号】 042-339-2451

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 043362

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 付箋紙

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 所定の平面形状に設けられた紙葉片の一端側に第 1 の接着層を設ける一方、前記紙葉片の他端側に第 2 の接着層を設けて構成された付箋紙において、

前記第 2 の接着層は、前記紙葉片の他端よりも内側に設けられ、前記紙葉片を所定の被着体に貼り付けたときに、略面接触状態を維持する一方、前記他端からの捲り易さが維持できる位置に設けられていることを特徴とする付箋紙。

【請求項 2】 所定の平面形状に設けられた紙葉片の一端側に第 1 の接着層を設ける一方、前記紙葉片の他端側に第 2 の接着層を設けて構成された付箋紙において、

前記第 2 の接着層は、前記紙葉片の他端から略 1 5 m m 以上離れた内側に設けられ、前記紙葉片を所定の被着体に貼り付けたときに、略面接触状態を維持する一方、前記他端からの捲り易さが維持可能に設けられていることを特徴とする付箋紙。

【請求項 3】 前記第 1 及び第 2 の接着層の間に更に接着層を設けたことを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の付箋紙。

【請求項 4】 前記第 2 の接着層の前記他端側端縁から前記他端までの領域は、紙葉片の長さに対して略 1 / 5 以上に設定されていることを特徴とする請求項 1, 2 又は 3 記載の付箋紙。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は付箋紙に係り、更に詳しくは、付箋紙の貼り付け状態をできるだけ平面的に保つようにすることができ、且つ、捲り作業も容易に行うことのできる付箋紙に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

従来より、紙葉片の片面に接着層を設けることによって構成された付箋紙が知られている。この付箋紙の接着層を形成する接着剤は、当該接着剤が被着体に転移することなく再接着可能な感圧性接着剤が用いられているため、事務用若しくは学習用のマーキング用備品として広く利用されている。かかる付箋紙は、平面視略方形をなす紙葉片の片面一端側領域に接着層を設けて多数枚の積層体として市販されており、これをユーザーが一枚毎剥離して目的とする部位に貼り付けるものとなっている。

## 【0003】

しかしながら、従来の付箋紙は、紙葉片の片面一端側に接着層が設けられているものであるため、例えば、立体形状を備えた容器等の被着体や、黒板等の面に付箋紙を貼り付けたときに、接着層が設けられていない他端側が被着体から大きく浮き上がった状態となり、貼り付けた状態が平面的に保たれず、また、付箋紙に文字等を記入して用いた場合の当該文字の視認性も劣るという不都合がある。

## 【0004】

そこで、最近では、図7に示されるように、前記接着層が設けられた位置とは反対側となる他端側にも接着層を設けたタイプの付箋紙50が市販されるに至っている。これによれば、付箋紙50を形成する紙葉片51の一端側と他端側に設けられた第1及び第2の接着層53、54により、図3(B)に示されるように、付箋紙50を被着体Aの面ASに略密着して貼り付けることができるという利点がある。

## 【0005】

## 【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、このような付箋紙50にあっては、前記他端側に設けられた第2の接着層54が紙葉片51の他端に非常に接近しているため、付箋紙を積層体としたときの最上位の付箋紙を捲り取るときに、何れの端縁から剥がすかの特定が容易でなく、それによって一枚ずつ捲り取ることが困難になるという不都合がある。しかも、図3(B)に示されるように、被着体Aに貼り付けた状態では、当該被着体Aの面ASと紙葉片51の他端との間に指先を差し込むための隙間Sが非常に小さなものとなり、これが付箋紙50を剥がす時の支障ともなっている

。更に、図 4 (B) に示されるように、複数枚の付箋紙 5 0 を相互に接着することなく直線上に並べて貼り付ける用い方では、その全長が非常に長くなってしまいうという不都合も生ずる。

#### 【 0 0 0 6 】

##### 【発明の目的】

本発明は、このような不都合に着目して案出されたものであり、その目的は、平面的な状態を保って貼り付けを行えるとともに、捲り取り若しくは剥がす際の取り扱いを良好なものとし、且つ、複数枚を直線方向に並べて貼り付けた際の全長も抑制することのできる付箋紙を提供することにある。

#### 【 0 0 0 7 】

##### 【課題を解決するための手段】

前記目的を達成するため、本発明は、所定の平面形状に設けられた紙葉片の一端側に第 1 の接着層を設ける一方、前記紙葉片の他端側に第 2 の接着層を設けて構成された付箋紙において、

前記第 2 の接着層は、前記紙葉片の他端よりも内側に設けられ、前記紙葉片を所定の被着体に貼り付けたときに、略面接触状態を維持する一方、前記他端からの捲り易さが維持できる位置に設けられる、という構成を採っている。具体的には、前記第 2 の接着層が、前記紙葉片の他端から略 1 5 m m 以上離れた内側に設けられる、という構成が採用されている。このような構成とすれば、第 1 及び第 2 の接着層によって付箋紙が略平面的な状態で被着体に貼り付けられるようになる。この一方、貼り付けた付箋紙を剥がすときは、前記他端と被着体との間に指先を差し込むことが比較的容易となる。また、複数の付箋紙を直線方向に向かって相互に接着することなく一列に貼り付けるときに、貼り付けられた複数の付箋紙の全長が長大化することも抑制することができる。なお、紙葉片の他端から略 1 5 m m 内側に離れた位置に第 2 の接着層を設けたのは、1 5 m m 未満としたときに、紙葉片の他端と被着体との間に隙間が殆ど形成されなくなり、紙葉片を剥がし難くなるためである。

#### 【 0 0 0 8 】

##### 【発明の実施の形態】

本発明における付箋紙において、前記第 1 及び第 2 の接着層の間に更に接着層を設けることもできる。中間に接着層を設けた場合には、被着体に対する接着力が強くなるため、更なる安定貼付が可能となる。

## 【 0 0 0 9 】

また、前記第 2 の接着層の前記他端側端縁から前記他端までの領域は、紙葉片の長さに対して略  $1/5$  以上とすることができ、更には、 $1/3$  以上に設定することが好ましい。 $1/5$  以下では、付箋紙を被着体に貼り付けたときに、前記他端側から剥離し難くなるためである。また、 $1/3$  以上あれば、付箋紙を直線上に並べた場合の全体長さを抑制する効果が高い。更に、前記他端から  $1/3$  以上  $2/3$  未満の領域に第 2 の接着層が細い帯状に設けられていれば、面接触状態が維持できるとともに、直線上に並べたときの長さ抑制も達成でき、また、付箋紙の剥離容易性を確保するとともに、剥離紙を捲り取った後のロール状の癖も付き難いものとなる。

## 【 0 0 1 0 】

## 【実施例】

以下、本発明の実施例を図面を参照しながら説明する。なお、以下の説明において、「長さ」とは、図 2 中左右方向に沿う方向について用いられる一方、「幅」とは同図中上下に沿う方向について用いられる。

## 【 0 0 1 1 】

## [第 1 実施例]

図 1 及び図 2 には、本発明に係る付箋紙の第 1 の実施例が示されている。これらの図において、付箋紙 10 は、平面視略方形の紙葉片 11 に第 1 及び第 2 の接着層 12、13 を備えて構成されており、これらを多数枚重ねて付箋紙積層体 15 とされ、最上位の付箋紙 10 を順次捲って剥離することができるようになっている。

## 【 0 0 1 2 】

前記付箋紙 10 を構成する紙葉片 11 は、本実施例では、図 2 に示されるように、長さ L 及び幅 W が略 74 mm の正方形に設けられ、その長さ方向の一端側片面に前記第 1 の接着層 12 が設けられ、長さ方向の他端側片面に第 2 の接着層 1



3 が設けられている。第 1 の接着層 1 2 の長さ  $L_1$  は略 1 5 mm であり、当該第 1 の接着層 1 2 の右端から略 1 7 mm の長さ  $L_2$  を隔てた位置に、略 1 0 mm の長さ  $L_3$  を有する第 2 の接着層 1 3 が設けられている。第 2 の接着層 1 3 の右端から紙葉片 1 1 の右端までの長さ  $L_4$  は略 3 2 mm であり、この  $L_4$  領域には接着層が設けられておらず、当該領域  $L_4$  が捲り代として作用するようになっている。

## 【 0 0 1 3 】

以上の付箋紙 1 0 を用いて貼り付けを行った状態では、図 3 (A) に示されるように、第 1 及び第 2 の接着層 1 2, 1 3 によって付箋紙 1 0 を被着体 A の面 A S に対して平面的に貼り付けを行うことができ、付箋紙 1 0 の表面に文字等を標記したときの視認性を良好に保つことができる。また、付箋紙 1 0 の右端と被着体 A の面 A S との間に、従来タイプに比べて捲り取り若しくは剥がし易い程度の隙間 S を形成することができる。更に、図 4 (A) に示されるように、複数の付箋紙 1 0 を相互に接着することなく直線上に貼り付けたときに、その全長も図 4 (B) に示される従来例よりも小さくすることができる。更に、図 1 に示される付箋紙積層体 1 5 の状態で最上位の付箋紙 1 0 を捲り取る場合も、何れの端部から捲り取ることができるかを容易に特定することができる。

## 【 0 0 1 4 】

## [ 第 2 実施例 ]

図 5 には、本発明の第 2 の実施例に係る付箋紙 1 0 が示されている。この付箋紙は、第 1 の接着層 1 2 及び第 2 の接着層 1 3 の間に第 3 の接着層 1 5 を設け、また、第 2 の接着層 1 3 と紙葉片 1 1 の右端との長さ  $L_6$  を約 2 6 mm に設定したところに特徴を有する。なお、この実施例における紙葉片 1 0 の平面サイズ、すなわち長さ及び幅は第 1 の実施例と略同一であり、図 5 中長さ  $L_1$ 、 $L_2$ 、 $L_3$ 、 $L_4$ 、 $L_5$  は、1 5 mm、1 1 mm、6 mm、1 0 mm、6 mm にそれぞれ設定されている。

## 【 0 0 1 5 】

このような第 2 の実施例では、第 1 ないし第 3 の接着層 1 2, 1 3, 1 5 により、第 1 の実施例に比べて被着体への接着強度を強く確保することができる他、

長さL6を短くした分だけ付箋紙10をより平面的に貼付することができるという効果を得る。

【0016】

[第3実施例]

図6には本発明の第3の実施例が示されている。この実施例は、第2の接着層13と紙葉片11の右端との長さL4を略17mmに設定したところに特徴を有する。付箋紙10の平面サイズは、前記各実施例と同一であり、図6中長さL1, L2, L3は、それぞれ15mm、32mm、10mmに設定されている。

【0017】

このような実施例によれば、第2の実施例より更に平面的に付箋紙10を貼り付けることができる一方、付箋紙10を剥がす際の捲り易さも極端に損なうことなく実用レベルとして提供することができる。

【0018】

なお、本発明における付箋紙10の平面サイズは前記実施例に限定されるものでなく、長さLと幅Wが種々異なる各種タイプのものを採用することができる。また、第1及び第2の接着層12, 13の間に設けられる接着層は、第3の接着層15に限らず、更に増加させてもよい。更に、第2の接着層は、幅方向に延びる帯状としたが、スポット的に一箇所としたり、散点的なものとしたりすることができる。要するに、本発明は、平面的な状態を保って貼り付けを行え、且つ、捲り取りも容易となるようになっていれば、接着層の長さ、幅を任意に変更することができる。

【0019】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、第2の接着層が、紙葉片を所定の被着体に貼り付けたときに、略面接触状態を維持する一方、前記他端からの捲り易さが維持できる位置に設けられる構成としたから、第1及び第2の接着層によって付箋紙を略平面的な状態で被着体に貼り付けでき、所定の標記を付箋紙に行った際の視認性を良好に確保することが可能となる。また、貼り付けた付箋紙を剥がすときに、当該付箋紙と被着体との間に指先を差し込むことが比較的容易となる

適度な隙間を形成することができる。更に、複数の付箋紙を直線方向に向かって相互に接着することなく一列に貼り付けるときに、貼り付けられた複数の付箋紙の全長が長大化することも抑制することが可能となる。

【 0 0 2 0 】

また、第 1 及び第 2 の接着層の間に更に接着層を設けた場合には、被着体に対する接着力が強くなって一層の安定貼付を実現できる。

【 0 0 2 1 】

更に、前記第 2 の接着層の前記他端側端縁から前記他端までの領域を紙葉片の長さに対して略  $1/5$  以上、好ましくは  $1/3$  以上に設定した構成により、付箋紙の面接触状態での貼付と、剥がし易さを安定して得ることができる。従って、例えば、ホワイトボード等の面や、模造紙等の面における多数箇所に貼り付けて利用したりすることに特に適した付箋紙として提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

第 1 の実施例に係る付箋紙の斜視図。

【図 2】

図 1 の平面図。

【図 3】

(A) は前記付箋紙が被着体に貼り付けられた状態を示す説明図、(B) は従来の付箋紙が同様に貼り付けられた状態を示す説明図。

【図 4】

(A) は前記実施例を直線上に複数並べて貼り付けた状態を示す説明図、(B) は従来の付箋紙を同様に貼り付けた状態を示す説明図。

【図 5】

第 2 の実施例に係る付箋紙の平面図。

【図 6】

第 3 の実施例に係る付箋紙の平面図。

【図 7】

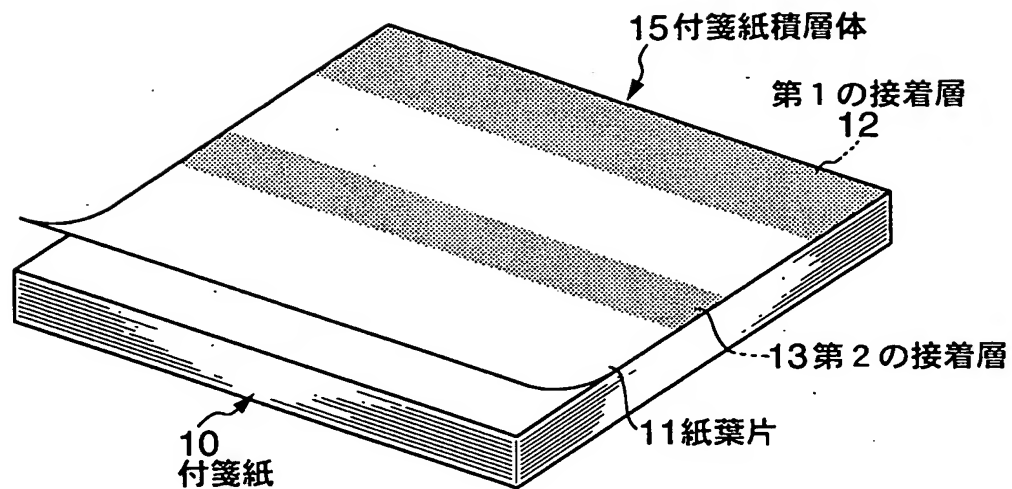
従来の付箋紙を示す平面図。

【符号の説明】

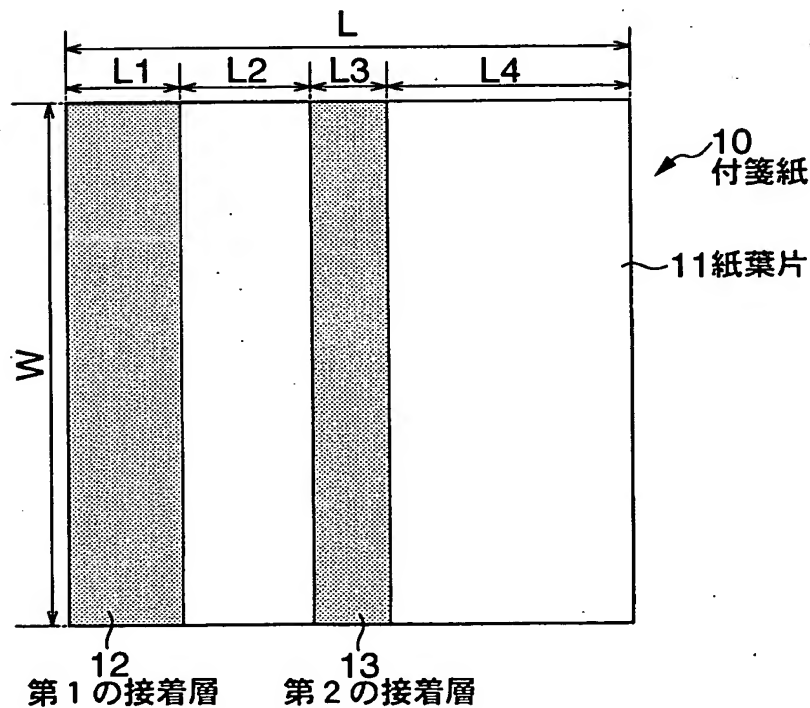
- 1 0 付箋紙
- 1 1 紙葉片
- 1 2 第 1 の接着層
- 1 3 第 2 の接着層
- 1 5 第 3 の接着層

【書類名】 図面

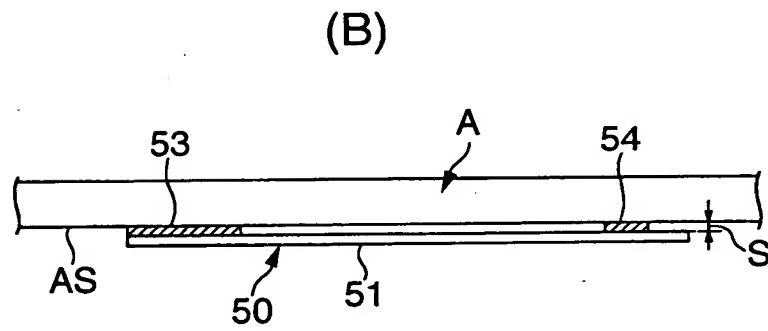
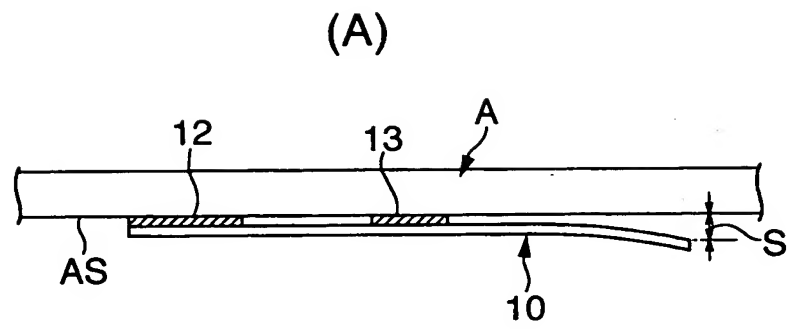
【図1】



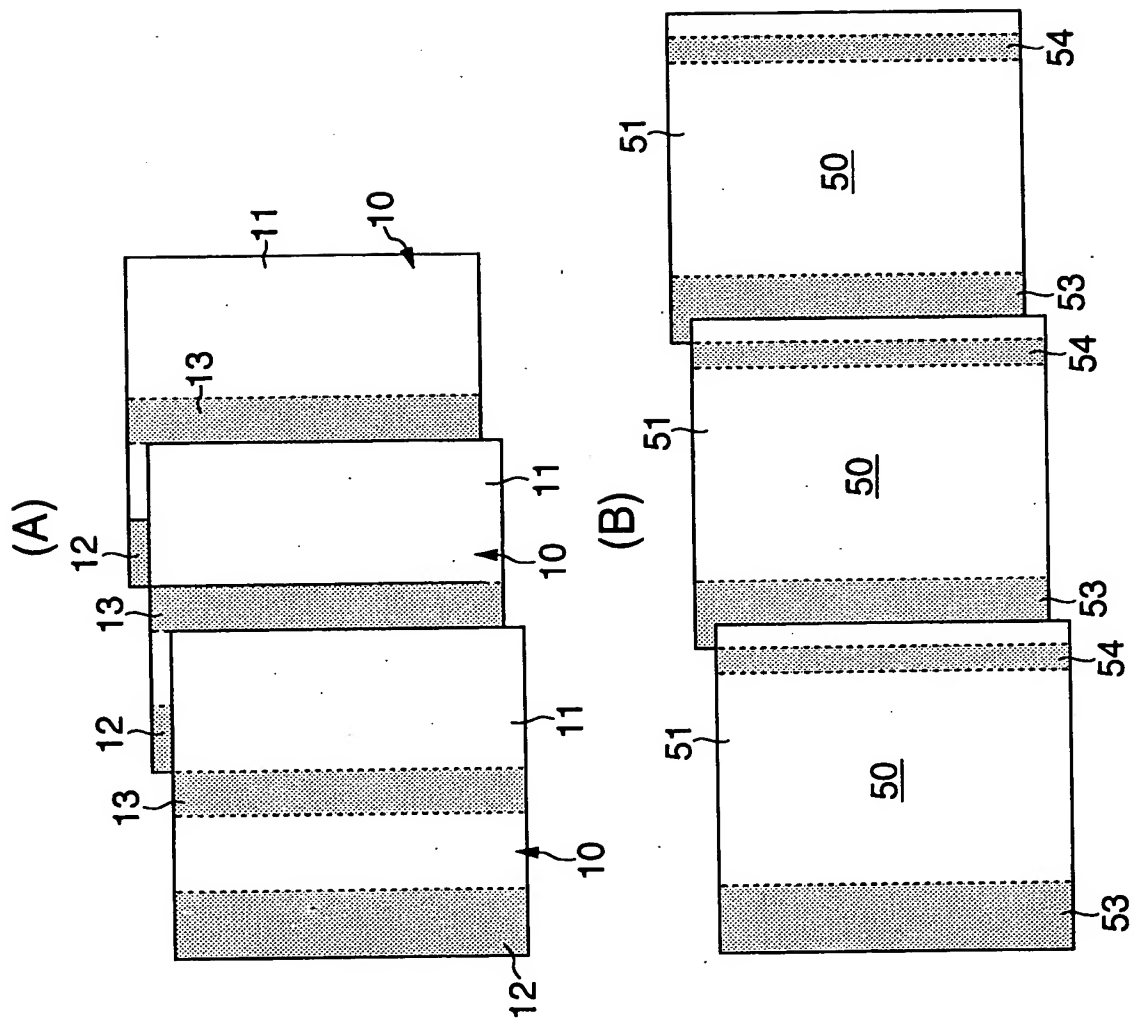
【図2】



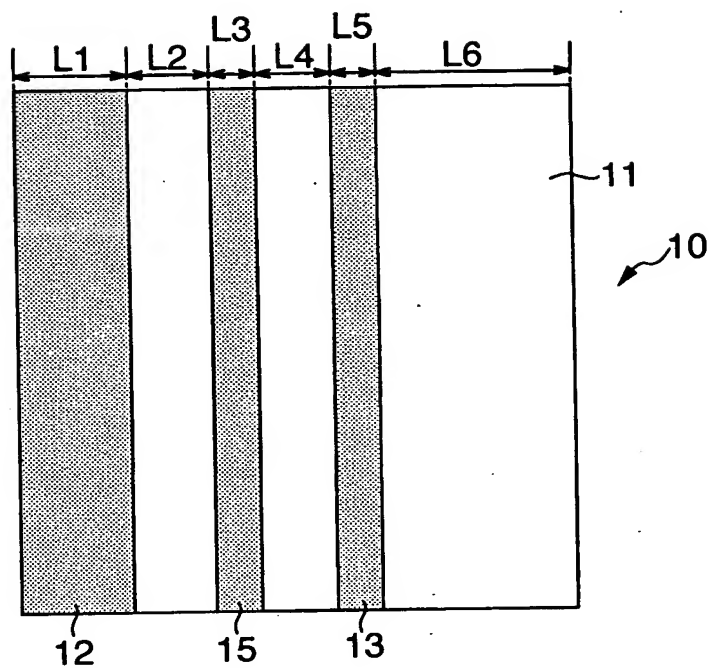
【図 3】



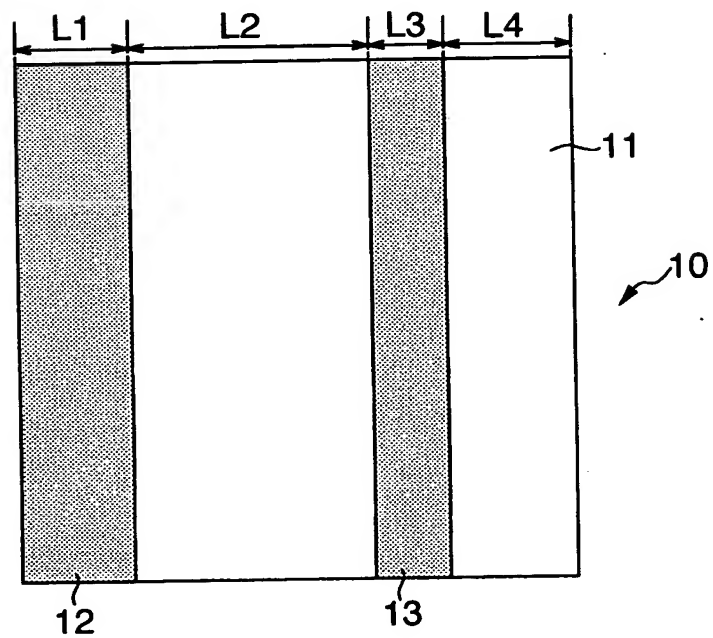
【図 4】



【図 5】

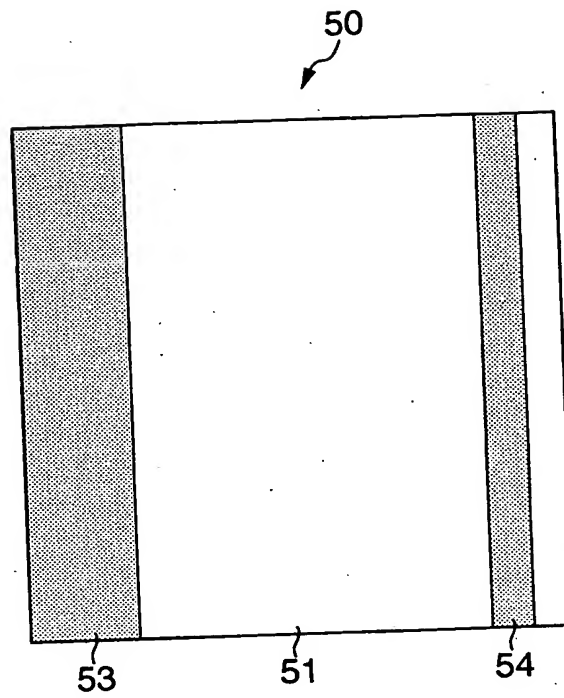


【図 6】





【図7】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 平面的な状態を保って貼り付けを行えるとともに、捲り取り若しくは剥がす際の取り扱いを良好なものとし、且つ、複数枚を直線方向に並べて貼り付けた際の全長も抑制することのできる付箋紙を提供すること。

【解決手段】 平面視略方形の平面形状に設けられた紙葉片11の片面一端側に第1の接着層12を設けるとともに、紙葉片11の他端側に第2の接着層13を設けることで付箋紙10が構成されている。第2の接着層13は、紙葉片11の他端から略15mm以上離れた内側に設けられており、被着体Aの面ASに貼り付けたときに平面的に貼り付けできる一方、捲り取りを行い易い程度の隙間Sが形成される。

【選択図】 図2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000001351]

1. 変更年月日 1990年 8月23日

[変更理由] 新規登録

住 所 大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号

氏 名 コクヨ株式会社